

授業科目 老年看護援助論Ⅲ	区分・教育内容 専門分野Ⅱ 老年看護学		
授業担当者 田安 和 （専任教員）	開講時期 後期	単位 1 単位	時間数 15 時間
授業の目的 生活の再構築を必要とするような健康状態の人に対する看護の方法を学ぶ 授業の目標 1. リハビリテーション看護の考え方を学ぶ 2. リハビリテーションを必要とする人の健康段階に応じた看護を学ぶ 3. 日常生活行動の再構築を支援する看護援助を学ぶ 4. リハビリテーションを必要とする人への看護援助の実際を学ぶ			
授業概要 高齢者は、老化の影響や疾患などからこれまでに獲得してきた生活機能が障害に見舞われ、日常生活の自立に支障をきたしやすい状態にある。老年看護は、疾患や障害がありながらもその人らしく生活を営むことができるよう支援することにある。 ここでは、一時的または永続的に、身体的（生理学的）機能や心理的・社会的自立を妨げる何らかの障害を持つ人々とその家族が、人間としての最善の機能を回復または保持し、その人らしい生活の再構築していく過程を支援するための理論と援助方法を学ぶ。 また、リハビリテーション過程の促進を目指した、多職種チームによるアプローチの中での看護師の役割についても学ぶ。			
授業計画(進め方) 1 回目 リハビリテーション看護の考え方 リハビリテーションにおける倫理と法的問題 2 回目 リハビリテーションを必要とする人の特徴と理解 リハビリテーションを必要とする人への看護援助 3～6 回目 機能別リハビリテーション看護 （意識障害・高次脳機能障害・感覚障害・運動機能障害） 事例による看護過程の展開 7 回目 日常生活行動の再獲得を支援する看護援助の実際 演習 8 回目 筆記試験			
テキスト 中西純子他編集 成人看護学 リハビリテーション看護論 ニューヴェルヒロカワ 最新老年看護学 第3版 2018年版 日本看護協会出版会			
参考書・指定図書 写真でわかるリハビリテーション看護アドバンス 林泰史監修 インターメディカ			
評価の方法 課題レポート(30%)、演習レポート(20%)、筆記試験(50%)で評価する			